総務の現場から

専門家集団の中で、自ら考え成長できる管理部を目指す

二〇一〇年に、税理士法人赤坂共同事務所より分離し、新たなスタートを切った税理士法人AKJパートナーズ。高度なプロフェショナル・サービスを提供する専門家集団として、会計税務業務をはじめ、組織再編やストック・オプション、事業承継、IFRS導入支援などのコンサルティング業務にも力を入れている。そんな専門家たちの総務、経理、人事、労務管理等を担っているのが管理部だ。成長著しい同法人を支える管理部と、自身の仕事ぶりについて、マネージャーを務める松本藍さんにお話をうかがった。

管理部の責任者にして代表の秘書も務める

松本藍さんが、代表パートナーの秘書として入社した当時、従業員はまだ八人で、松本さんが一人で秘書業務から総務経理全般までを担っていた。それが分離を機に事業規模も拡張。今や三六人の専門家が属するまでとなり、管理部も設置された。今では、松本さんの下に六人のメンバーがいる。「現在は、代表の秘書業務と管理部の業務・マネジメントが私の仕事。どちらも多忙なため、時に戸惑うこともあります」と、松本さん。仕事が違えば課題も変わる。秘書の方は、「仕事が少しでもスムーズに進むように、目配り、心配りを大切にしています。代表が考えていることを先に読み取って、何をすべきかを考える。一の指示で十まではいきませんが、五はわかるように心掛けています。できているかはわかりませんが……」。学生時代に秘書検定に合格し、希望した職種だけあって、大変さを知った今もやりがいを感じているようだ。

一方、管理部のマネジメントでは、メンバーとのコミュニケーションが一番重要だと考える。「メンバーを持つ立場になってみて、その難しさを日々感じています。専門家たちが増員され、事務所が成長していく中で、管理部だって成長しなくてはいけない。一緒にレベルアップしていこう！という志を、いかに共有し、実践していけるかが課題です」。若いメンバーの教育に力を注ぎながら、キャリアアップの支援もしたいと、松本さんの想いは膨らむ。

オフィス移転を次々と担当「すごい」の声が喜びに

管理部は、専門家たちの勤怠チェックなど、彼らの本業以外でかかわることが多く、だからこそ「積極的に気配りを！」と、メンバーにいい続ける。困っている人を見かけたら、さっと手助けをする。些細なことでも、トラブルを早く解決できれば、彼らの仕事に使う時間を増やすことができる。「それこそが、私たち管理部の役割なのでは、と思っています」。また、「この四年で、オフィスの増設から移転、二か所の支店開設を担当し、事務所の成長にかかわってこられたことをリアルに実感できました。そしてみんなから、すごい事務所だね、といわれたときはとてもうれしかったですね」。経験を重ね、スキルが着実に身に付いていったことも喜びだ。

社会保険労務士の有資格者でもある松本さん。顧客の労務相談に応じることもあり、現在、特定社会保険労務士の資格取得の準備中だ。「代表からは、管理部は便利屋ではない、考える仕事をし、専門性を高めなさい、と言われています。資格取得のほか、専門知識を深めて、メンバーともども、管理部の仕事の可能性を広げていきたいですね」と、松本さん。さて管理部とは同法人にとってどんな存在なのだろう。「社内規定を作るのも、美化の徹底も、来客の対応も、すべて管理部の仕事。風土も含めて、外から見える部分のすべてを作っている。その意味で管理部は、法人そのものだと思っています」。その言葉の力強さに、松本さんの仕事に対する責任感と重要性が表れていた。

税理士法人 AKJパートナーズ
管理部　マネージャー　社会保険労務士
松本　藍さん

まつもとあい●一般企業数社での総務・人事・労務・秘書業務などの経験を経て、2008年入社。趣味は講師の資格も有するフラワーアレンジメント。休日には、花を買って来て、贈り物にするアレンジメントを作ったり、同居人でもある双子の妹さんとショッピングをするのが楽しみ